

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年3月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4773500030
法人名	社会福祉法人憲章会
事業所名	東雲の丘指定認知症対応型共同生活介護事業所
所在地	〒901-1203 南城市大里字大城1392 (電話) 098-946-2051
評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年2月28日

【情報提供票より】(平成19年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12	年	4	月	1	日
ユニット数	2	ユニット	利用定員数計	18	人	
職員数	13	人	常勤	11	人,	兼務 2 人, 常勤換算 12 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造スレート平屋 階建ての 階 ~ 階部分
------	-----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000	円	その他の経費(月額)		円
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無		有/無
食材料費	朝食		円	昼食	円
	夕食		円	おやつ	円
	または1日当たり 1,380 円				

(4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	18	名	男性	1	名	女性	17	名	
要介護1	2	名	要介護2	2	名				
要介護3	8	名	要介護4	3	名				
要介護5	2	名	要支援2	1	名				
年齢	平均	90.3	歳	最低	75	歳	最高	104	歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	沖縄メディカル病院・ハートライフ病院・南部徳洲会病院・与那原中央病院・他
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは自由に散歩できるコースが確保できるほど、広大な敷地と自然に恵まれた環境に立地している。また本県において唯一の2ユニットのグループホームであり、ホーム同士が隣接していることで入所者が互いの家のように行き来し、良き隣人としてのなじみのあるアットホーム感覚を醸し出している。18名の入所者は人と関わる機会が多く、気遣い、整容、関心などが毎日の生活に活力をあたえている。母体施設との連携を存分に活かして介護車、車両バス、カラオケルーム、売店、リサイクルショップ、大ホールでの芸術鑑賞など入所者は様々な経験をすることができる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回改善項目として挙げられた約半分が既に改善され、市町村へも届けており、早期改善へと取り組んだ努力や前向きな姿勢には、管理者をはじめとする職員一同のチームワークのよさと熱心さが汲み取れる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は勤務体制の関係上、主に管理者中心で評価したため昨年のような全職員での取り組みには叶わなかった。次回からは、早い段階から計画的に取り組み、全員で作成していく予定である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的に行われているが、ホーム側からの意向や希望など方向性を表示することが模索中のため出来ず、報告のみの会議となっている。大まかな年間計画を立てて、そこから出てくる事項を提案してみる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	今までに「意見箱」の利用が全くないので、それに変わる気軽に意見の言えるアイデアや、家族からアンケートをとる等、今後管理者と職員間で改善方法を検討していく予定である。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	現状の職員体制や、ホームの立地条件においては、利用者の要介護状態の重度化に伴い、日常的に地域に出かけて交流したり遠出して買い物をすることが難しい状況にあるが、これからは積極的に方法を模索していく。

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念とは別に、ホーム独自に4つの理念を掲げている。	○	今後は地域密着型のグループホームの理念として、地域との交流を意識した内容の理念を独自に作り上げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「家庭的」というホームの特色がマンネリ化しないためにも、「日々理念に沿ったケアをしているか」を常に管理者と職員は理念と実践をつき合わせて取り組んでいる。		利用者を急がせるような場面がなく、職員一人一人の動き方に落ち着きが感じられる。日々管理者が職員に対して、意識的に理念を浸透させている姿勢が感じられる。今後も管理者のリーダーシップに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在の職員体制においては、利用者の要介護状態の重度化に伴い、日常的に地域に出かけて交流したり、遠出して買い物をするのが難しい状況である。	○	ホームは地域とかけ離れた場所にあり利用者等が地域に出て行くことは難しいが、法人の社会資源を地域へ還元し、介護予防教室やリーフレット配布、自治会での認知症理解の講習会など、地域とのつながりを強めていかれることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は時間的な理由により管理者中心の自己評価になったが、仕上がりは職員全員で確認している。職員は、改善が必要と感じているときは管理者へその内容を伝え、職員全体で話し合い改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回行われている。今のところはグループホーム、認知症、地域密着型サービスに対する説明と報告になっているが、これからのホームの方向性とテーマをしっかりと見つけて活発な実行ある運営推進会議になるように取り組んでいけるよう計画中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームのサービス内容について情報交換や協議することはない、市町村との積極的な関わりは現在とくに持っていない。	○	市町村の情報ははやく、たくさん得る為にも積極的に往来することが望まれる。市町村からも運営推進会議のメンバーに参加してもらっているので市町村の情報をいち早く共有してサービスの質の向上につなげてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来られる時に、利用者の現状をその場で報告している。来訪が少ない家族へは暮らし振りや健康状態などを電話を利用して報告している。また年3回のホーム便りも発行し、配布している。	○	訪問が疎遠になっている家族に対してもホームにきてもらえるよう、日々の利用者の暮らしぶりについて定期的に報告したり、家族に対し利用者が電話をするなどの工夫が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情投票箱を玄関の見えやすい場所に設置してあるが、まだ活用されていない。苦情等は面会時にホーム側から聞き出すように努めている。	○	今後は家族アンケートなどの実施により、家族などから積極的に意見を反映していく工夫が望まれる。また現在利用者の家族は、法人全体の家族会として活動しているが、今後はホーム独自で家族同士の交流を深めていかれるよう取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動が定期的にあるので、馴染んだ関係が樹立できないときもある。認知症を理解してもらい、なるべく人事異動によるストレスの軽減を図れるよう法人に働きかけていく。	○	職員の異動が決まったら、早めに家族と利用者知らせ心安定を保てるようにする。しばらくは新旧の交代職員を同時時間に入ってもらうなどして利用者の不安軽減に努めてほしい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人主催の研修会や勉強に積極的に参加している。施設外研修においては、管理者が勤務ローテーションを工夫して順番に参加できるよう配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会主催の研修会や見学実習などを通して、他のグループホーム職員との交流を積極的に行っている。またそこで同様な悩みを共有することで、日々の仕事を振り返り、新たな視点を持つことにより、サービス改善へとつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	すぐにホームを利用する場合は時間をかけて馴染みの関係を作り上げている。その際には家族と頻回に連絡を取り合い、面会の回数を多くしてもらったりして利用者本人の不安を和らげながらサービスの利用開始へとつなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	それぞれの生活暦から生まれたアイディアや知恵などを出せるひとときとして、季節の行事などは利用者を中心に賑やかに行われる。利用者からカーサ(サンニンの葉)のふきかたや包み方を教えてもらうなど、共に支えあった関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を大切に、家族と連携しあって支援している。職員は、利用者本人が自分から「やりたいこと」を言い出せるよう、決して急がせることなく利用者との時間的な間合いをとっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	「基本情報」の利用者の意向に沿った「介護計画」が作成されている。また家族の意見や職員からの情報を共有しながらサービス担当者会議において、利用者自身が自立して日々の暮らしが営まれるようなサービス内容を確認している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは概ね6ヶ月に1回行っている。本人の状態が著しく変化(特に入院等)したときは、その都度見直しを検討している。日々の記録はシステム化されているので多忙な中にも丁寧に整理され、情報は職員間での確に共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして日々の健康管理を強化している。デイサービス等は母体施設にあり、希望があれば利用できる。法人の中で多機能性を活かした支援が出来るようになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望するかかりつけ医での受診支援をしている。家族の要望があれば、ホームで対応している。また車イス利用者の場合には母体施設の介護車を使用して家族と職員で病院受診をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームを利用する当初から、家族一人一人と重度化や終末期に向けて話し合いを行っている。現在、全介助者が居られるが入所前に終末期に向けた話し合いを確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーが特に求められる入浴介助、排泄介助では、行動する前に目的を明確にお互い確認し合い、了解を得てから行動するようにしている。行うときの動作の一つ一つに声かけを忘れないようにしており、管理者は「何をするにも声かけをする」ことを日々の実践の中で職員に繰り返し伝えている様子が伺える。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく自由に行動してもらい、それが生きがいに繋がるような支援となるよう心がけている。ホーム内においては、ゆったりとした雰囲気の中で利用者自身が主役となって生活されている様子が感じられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者も職員も一緒に談話しながら楽しく摂っている。集団が苦手な個食利用者に対しても、その人が希望する状態を受け止め個別対応している。食後の後片付けは、職員が利用者の方へお願いして、食器を運んでもらっている。	○	当ホームの昼食は、母体施設からの給食を利用している。法人との兼ね合いで致し方ないが、事業所の特性を踏まえて利用者と一緒に楽しい料理作りが展開されるよう期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者自身の生活のサイクルに合わせて入浴している。入浴を拒否する場合には無理強いせずに、職員を変えてみたり、しばらく時間をおいたり、翌日に誘ってみたり試行錯誤しながら工夫して入浴を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔から楽しんでいた趣味を、ホームの中においても出来る限り楽しみごととして続けられるよう支援している。また、母体施設のカラオケを楽しんでいるほか、午後のゲームを計画的に取り入れているが、本人志向を貫いて、無理強いせずに楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内の菜園、日当たりのいい物干し場や、日常的に出かける母体施設の売店等は散歩機能を果たしている。ホームは高台に位置しているため、快晴時には空気がとても美味しい環境である。	○	広大な敷地内を散策するだけでもかなりの散歩になるが、やはり事業所外の外出支援として、その人が行きたい場所を個別対応で予定を立ててみる等、職員体制の検討も含めて工夫が望まれる。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける習慣のある入所者もいて、いつの間に施錠されていることもあるが、日中は鍵をかけていない。利用者の様子を観察しながら、外出希望であれば散歩を取り入れたりして臨機応変に対応している。また夏場は玄関ドアを開放して網戸だけにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回、昼間と夜間を想定した避難訓練を実施している。管理者は日頃から災害に対する危機意識を持っており、すべての職員において対応方法が体得されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	電子化された記録により、食事量のみならず、バイタルチェック・入浴確認・体重測定表など、利用者の健康面を全体的に把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が木目調で彩られており、落ちつきさと暖かさが感じられる。トイレが各所に三ヶ所あるが、いずれも廊下など共有空間への臭いがなく清潔感がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、かつて使用の家具などが持ち込まれており、家族の写真、華やかな賞状、孫の絵画など思い思いの演出で壁を賑わしていて、それぞれの個性に合わせた部屋作りになっている。		